

函高専に研究拠点開所

長岡技科大と学術交流協定



「夢創造ラボ函館」を開所した長岡技科大の東学長（右）と函館高専の但野校長

函館高専（但野茂校長）と長岡技術科学大学（新潟県、東信彦学長）は26日、学術交流協定を締結し、同高専内に共同研究を行う同大学院のサテライトラボ「夢創造ラボ函館」を開所した。ラボでは海産物の輸送運搬技術や陸上養殖など、函館の水産業の活性化につながる技術を研究する「函館水産海洋工学」を実践。学校間の連携を強め、地元企業に貢献する人材育成につなげる狙いだ。（蝦名達也）

水産業活性化や人材育成へ

全国の高専からの編入が多い長岡技科大は、これまでも函館高専と共同研究を行ってきた。その中で同高専が漁業者の高齢化やイカ不漁など、函館の水産業への貢献を目的とした函館水産海洋工学の実践を計画。地域産業の発展に寄与する実践的技術者の育成に取り組む同大の協力を得て、協定締結とラボの開設に至った。

この日、同高専で但野校長と東学長が協定書に調印した。東学長は「函館高専との共同研究は活発で、この協定をステップにさらに研究を進展させ、函館市の水産関連の活性化に少しでも貢献できれば」とあいさつ。但野校長は「地域の課題を解決し、還元する高専になるため、長岡技科大の後押しを心強く思う。地元工学技術を根付かせたい」と述べた。

ラボには同大の教員らが通うほか、同様の協定を結んでいる北大大学院水産科学研究院、公立はこだて未来大とも連携し、水産関連機械の省エネや水産物の鮮度保持などの技術を研究。同大との遠隔授業なども行っており、年内から学生への教育を進める。